

# 公 民 [ 倫 理 ] (100 点 50 分)

2013 年 9 月 19 日 (木) 2 限 実施  
前期期末考査  
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 ABCD 組  
Edited by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。  
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

# 倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 4) に答えよ。(配点 10)

(a)「マタイ伝福音書」によると、イエスはヘロデ大王の統治下 (前 37~前 4) に生まれたが、「ルカ伝福音書」によると、その誕生は皇帝アウグストゥスによる人口調査の勅令発布の年と結び付けられている。一般にこの人口調査は紀元後 6~7 年に実施されたと考えられているが、勅令はすでに紀元前 7 年に発布されていたと推測する学者もいる。[ 1 ] をイエスの出生地とする「マタイ伝福音書」と「ルカ伝福音書」の叙述は、メシアは [ 1 ] から現れるという、ユダヤ人の期待 (「ミカ書」) に基づく物語であるかもしれない。古い伝承によると、イエスは「ナザレのイエス」とよばれているので (「マルコ伝福音書」)、ガリラヤのナザレの出身であったと推測される。父はヨセフ、母はマリア。兄弟たちや姉妹たちもいた (「マルコ伝福音書」)。「マタイ」「ルカ」の両福音書の誕生物語では、イエスを処女マリアから生まれたとして、イエスの聖性の根拠としている。少年時代については、12 歳のときエルサレムの神殿で教師たちと問答をし、その賢さに人々が驚嘆したという物語 (「ルカ伝福音書」) のほかには、何も知られていない。紀元 28 年ごろヨルダン川のほとりで [ 2 ] の洗礼運動が始まると、彼から洗礼を受け、やがて弟子たちを集めて宣教活動を開始した。

「マルコ伝福音書」によると、イエスの活動のおもな舞台はガリラヤである。彼は民衆の間で教え、病人を癒し、悪霊祓を行うが、ユダヤ教の伝統的教えに対して自由にふるまったため、(b)パリサイ派などユダヤ教指導者の反感を買った。

最後に、過越祭を祝うためエルサレムに上京 (日曜日)、そこでユダヤ教指導者たちと論争し、弟子たちを教えるが、その週の木曜日に 12 弟子と過越の食事 (最後の晩餐となった) をともにし、その 1 人であるイスカリオテのユダに裏切られ、ユダヤの最高法院 (サンヘドリン) によって逮捕、審問され、流神の罪で死刑の判決を受けた。しかし当時ユダヤ人は死刑執行権をもたなかったので (「ヨハネ伝福音書」)、イエスをローマの総督ポンティウス・ピラトゥス (ポンテオ・ピラト) に反ローマ運動の指導者として訴え、死刑を強く要求した。福音書によれば、ピラトゥスはイエスにその罪をみいだすことができなかったが、ユダヤ人の声に負け、(c)彼を「ユダヤ人の王」として、エルサレム郊外のゴルゴタの丘で十字架につけた。このことから、イエスは実際に反ローマ的暴力革命の指導者であったと想像する学者もいるが、福音書によれば彼の運動は政治的でも軍事的でもない。しかしイエスのように、この世界の終焉を意味する神の国の宣教と治癒活動によって多くの抑圧された貧しい民衆をひきつける者は、支配者にとって好ましくない人物に違いなかった。しかもイエスのもとに集まる民衆のなかには、彼の意に反して民族的メシア王国の実現を期待する者もいたので、支配層はそこにいっそう危険を感じたことであろう。そのためにイエスの処刑には福音書が報告する以上に、ローマ人が積極的に関与したかもしれない。

問 1 文章中の空欄 [ 1 ] ~ [ 2 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [1] 

[	①	メッカ	②	サマリア
	③	エルサレム	④	ベツレヘム





問3 下線部(b) に関して、「アバ」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① 奴隷が主人を呼ぶときに使う言葉
- ② 妻が夫を呼ぶときに使う言葉
- ③ 幼児が父親を呼ぶときに使う言葉
- ④ 母親が幼児を呼ぶときに使う言葉

問4 下線部(c) に関して、神の国は純粋な恵みの賜物として律法をわきまえない者にも与えられることをあらわすたとえ話として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[10]

- ① 放蕩息子の帰宅を喜び迎える父親のたとえ
- ② 強盗に遭ったユダヤ人を助けた良きサマリア人のたとえ
- ③ 油の準備を怠り花婿を迎えに行けなかった思慮の浅い花嫁のたとえ
- ④ 金持ちが神の国に入るより、らくだが針の穴を通るほうがやさしいというたとえ

問5 下線部(d) に関して、神への愛と隣人愛の戒めが大切である理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[11]

- ① 神への愛と隣人愛の律法を忠実に守ることができる者のみが神の国に入ることができるから。
- ② 旧約聖書にのみあらわされている神への愛と、新約聖書にのみあらわされている隣人愛を兼ね備えたものがアガペーであるから。
- ③ 旧約聖書には描かれていなかったこの2つの戒めを、イエスが新しい契約として人びとに与えたから。
- ④ 神の愛によって永遠の命を受け継ぐ者は、それに対する感謝の応答として神と隣人への限りない愛を求められるから。



問2 下線部(a)に関して、パウロの言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[15]

- ① このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。
- ② 哲学者の『自然学』第三巻によれば、無限なるものはすべて、不完全なるものである。しかるに神の能力は不完全ではない。ゆえに無限ではない。
- ③ 聖書を読み始めた私は、先にプラトン派の書物の中で読んだ真実のことがらはすべて、聖書のうちに、しかもあなたの恩寵を称揚しつつ述べられていることを発見しました。
- ④ 鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。

問3 下線部(b)に関して、アウグスティヌスの恩寵についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 人間は、自由意志によって善なる神の恩寵を求めることによってのみ、悪の神や悪魔のもたらす不幸と害悪から身を守ることができる。
- ② 人間の悪への傾向は神の恩寵が人間に与えた試練で、善を求める自由意志のみが原罪を乗り越える力を持つ。
- ③ 人間の罪は神が与えた自由意志によって生じるが、この自由意志は原罪の下にあって、善への自由、愛への自由を失っている。意志の自由を回復するのは、神の恩寵であり、恩寵は聖霊によって与えられる。
- ④ 人間は自由意志を持っているのではなく、人間の心と体の働きは、すべて神の恩寵による摂理によって、永遠の昔から決定されている。

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問3）に答えよ。（配点 10）

紀元前15世紀ごろ、中央アジアの草原地帯からインダス川上流域に侵入したアーリヤ人は、先住民族を征服しながら、やがてガンジス川中流域に定住の農耕社会を成立させた。彼らの社会は、(a) 四つの身分からなるヴァルナによって秩序づけられていた。人間の幸・不幸は神々の祭り方にかかっていると考えられ、この祭祀をつかさどるバラモンは、神に等しい社会的地位を占めた。バラモン教とよばれる彼らの宗教は、神々への賛歌を集めた『[ 17 ]』を中心とする (b) 根本聖典『ヴェーダ』にもとづくものであった。やがて紀元前7世紀ごろからは、呪術中心の教えにあきたりない人々に、存在の理法への関心が高まり、奥義書『ウパニシャッド』の哲学が形成された。

バラモン教の信仰は、インドで古くから信じられてきた輪廻の思想とむすびついている。

輪廻とは、人間をも含めて、すべて生あるものは、死後さまざまなものに生まれかわり（転生）、生と死を無限にくりかえすことをいう。そして、何に生まれかわるかは、そのものの現世の行為、すなわち [ 18 ] の善悪による、とされた。当初は、よいものに生まれかわるために善い [ 18 ] を積むことが説かれた。しかし、よいものに生まれかわってもいずれは死に、ふたたび生の苦しみをくりかえさなければならない。そのため、やがてこうした無限の輪廻の苦しみからの解放、すなわち解脱が追求されるようになった。

この問題について、ウパニシャッド哲学は、苦行や精神統一（ヨーガ）によって輪廻をひきおこす [ 18 ] をたち、梵我一如の真理を自覚し体得すれば、解脱できると説いた。すなわち、個人の根源である [ 19 ] が、宇宙の本体でありその絶対的原理と、本来まったく同一であること、つまりさまざまに転生するあり方を捨てて真実の自己（真我）に立ち返り、それが森羅万象の根源である絶対者と一体であるという真理に目覚めれば、人間は生死・輪廻をこえて、不生不死の境地に達しうる、としたのである。

問1 文章中の空欄 [ 17 ] ～ [ 19 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [17] [ ① ヤジールーヴェーダ ② アタルヴァーヴェーダ  
③ リグーヴェーダ ④ サーマーヴェーダ ]

- [18] [ ① プルシャ ② ヴィシュヌ  
③ サンサーラ ④ カルマ ]

- [19] [ ① ブラフマン ② アーリマン  
③ アートマン ④ アフラマズダ ]

問2 下線部(a)に関して、ゴータマ・シッタッタが所属していたヴァルナとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① クシャトリア ② シュードラ ③ バイシャ ④ バラモン

問3 下線部(b)に関して、ヴェーダに描かれる神の名として**適当でないもの**を下の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① サラスヴァティ ② ヴアイローチャナ ③ インドラ ④ アスラ

第5問 次の文章を読み、下の問い(問1～問5)に答えよ。(配点 14)

人間は多くの場合、ひとりよがりな考えにとらわれ(我執)、さまざまなあやまちを犯して生きている。たとえば、強い者はその強さを「わがもの」と思いこんで傲慢になり、(a)すべてが縁起によって起こることを忘れている。弱い者は弱さにとらわれ、卑屈になって本当の自己をけがしている。しかし、弱者・強者の対立をこえて、誇ることもなく、いじけることもなく、たがいに助けあって正しい生活を成就していくことが、真理にめざめた人の知恵の教えである。

悲惨なことは、愚かな人間(凡夫)が苦のなかにありながら、その原因を知らない状態、つまり [ 22 ] のために、かえって苦の原因を積み重ねていることである。個々の悪しき意志や卑劣な感情、むなしい願望などは、けっしてそれ自体で起こるのでなく、すべてこの無明に根ざした一連の現象であるため、この原因をはっきり知らなければならない。それをまとめたのが (b)四諦(四つの真理)であり、その実践の方法が八正道である。

苦諦の内容は、生・老・病・死の四苦からなるが、これらにうらみ・別れなどにかかわる (c)四つの苦を加えて、八苦という言い方もある(四苦八苦)。これらすべての原因となる煩惱から自由になるための修行法が、(d)八正道である。八正道は、すべてのかたよりやゆがみを正し、快樂からも苦行からもはなれることから、[ 23 ] とよばれる。

こうして正しい修行を積んだ結果、すべての束縛から解脱した悟りの境地にいたることができる。それを [ 24 ] という。人は、死ねば肉体の制約から解放されるため、[ 24 ] とは死去を意味するようにもなった。

問1 文章中の空欄 [ 22 ] ～ [ 24 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[22] [ ① 無 我                      ② 無 記  
          [ ③ 無 明                      ④ 無 常

[23] [ ① 禪 定                      ② 中 庸  
          [ ③ 五 蘊                      ④ 中 道

[24] [ ① 三 昧                      ② 大 悟  
          [ ③ 浄 土                      ④ 涅 槃

問2 下線部(a)に関して、縁起説の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① 身体を安静に保ち、心静かに人間本来の姿を瞑想すること
- ② ある対象に対して、まっすぐ平等に働き、乱れたりしないころの状態
- ③ 有情を構成する五つの要素すなわち、色、受、想、行、識の五つ
- ④ あらゆる事象は事象間の相互関係の上に成立するということ

問3 下線部(b)に関して、四諦についての説明として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[26]

- ① 苦諦とは、苦しみを乗り越えることが人生の目的であるという真理である。
- ② 集諦とは、苦の原因は渴愛に代表される煩惱であるという真理である。
- ③ 滅諦とは、煩惱を滅した状態がニルヴァーナであるという真理である。
- ④ 道諦とは、苦を滅するための修行方法が八正道であるという真理である。

問4 下線部(c)に関して、八苦の内容として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[27]

- ① 一切皆苦      ② 愛別離苦      ③ 求不得苦      ④ 怨憎会苦

問5 下線部(d)に関して、八正道の内容として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[28]

- ① 八正道とはニルヴァーナに達するための八つの正しい実践行のことである。
- ② 八正道とは自利行ではなく利他行としての慈悲の実践である。
- ③ 八正道は四諦の中で説かれる、煩惱を滅するための道である。
- ④ 八正道は正しい認識と正しい生活と正しい精神統一の在り方を説く。

第6問 次の文章を読み、下の問い（問1～問5）に答えよ。（配点 16）

仏陀の死後100年ほどたつと、仏教教団は仏陀の教えの解釈をめぐり、仏陀の言行に忠実にしたがおうとする上座部と、仏陀の精神を重視する大衆部とに分裂した。この二派はさらに分裂を重ねて、紀元前2世紀ごろには、二十の部派に分かれた。これらを部派仏教という。部派仏教では、もっぱら仏陀の教えを分類し整理して、教えの意味の解釈や体系化がなされ、のちの仏教理論の基礎が形成された。また、彼らは仏陀の言行を解脱の方法として理解し、きびしい修行によって、[ 29 ] となることをめざした。

紀元前1世紀ごろになると、おもに大衆部の流れをくむ布教師や在家信者などのあいだから、大乘仏教の運動がおこった。彼らは、従来の上座部系の部派仏教の教えを自己の解脱のみを考える自利であり、小さな劣った教えであると批判して小乗仏教とよび、仏陀の言行の精神は、すべてのものの解脱をめざす慈悲（利他）にあると考えた。ここから大乘仏教では、この世に生きとし生けるものすべて（一切衆生）の救済をめざして修行する、[ 30 ] のあり方が理想とされた。彼らは、一切は [ 31 ] であるとの立場に立ち、(a) 六波羅蜜の実践を通して、他者の救済と自己の悟りをめざした。

大乘仏教の教えは、(b) ナーガールジュナ（竜樹）の [ 31 ] の思想によって、理論的に確立された。彼は、すべての事物は相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在するのではない（無自性）と説いた。彼の理論によって、煩悩や苦行もまた固定的なものではなくなり、迷いのなかにある凡人にも仏となる可能性が開かれることになった。すなわち、この考え方は、自己の悟りと他者の救済にへだてを設けない慈悲の立場や、(c) すべての生きものに仏となる可能性（仏性）を認める考えにつながるものであった。大乘仏教の根本を確立した竜樹は、のちに中国や日本において、多くの宗派の祖として重んじられた。

さらに4世紀ごろには、実在するのは心のはたらきだけであり、外界の事物は意識の産物にすぎないとする (d) 唯識の思想がアサンガ（無著または無着）、[ 32 ] 兄弟によってとえられ、大乘仏教の有力な学説として、後世に大きな影響をあたえた。

問1 文章中の空欄 [ 29 ] ～ [ 32 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [29]    [ ① 阿羅漢                      ② 優婆塞  
          [ ③ 如来                        ④ 菩薩

- [30]    [ ① 阿羅漢                      ② 優婆塞  
          [ ③ 如来                        ④ 菩薩

- [31]    [ ① 空                              ② 苦  
          [ ③ 法                              ④ 無

- [32]    [ ① ウパーリ                      ② ヴァスバンドゥ  
          [ ③ ラーフラ                      ④ ヴァルダマーナ

問2 下線部(a)に関して、六波羅蜜の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]

- ① 大乘仏教の理想とされる行。布施、持戒、忍辱、精進、禪定、般若の六つをいう。
- ② 比丘が所有を義務づけられた六つの生活用品のこと。
- ③ 仏教との輪廻の道。天道、人道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道の六つをいう。
- ④ 森羅万象を構成する六つの要素、地界、水界、火界、風界、空界、識界をいう。

問3 下線部(b)に関して、ナーガールジュナの著書として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[34]

- ① 十住心論    ② 中論    ③ 俱舍論    ④ 成唯識論

問4 下線部(c)に関して、如来像説をあらわす記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]

- ① 波羅僧羯諦菩提薩婆訶
- ② 一切衆生悉有仏性
- ③ 阿耨多羅三藐三菩提
- ④ 南無阿彌陀仏

問5 下線部(d)に関して、唯識思想をあらわす記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① あらゆる存在はただこころのはたらきで表された仮の存在にすぎないとみる。
- ② すべての存在はその固有の本質をもたないとみる。
- ③ 実体、属性など六つの範疇を立てて現象界の構成を明らかにしようとした。
- ④ 身口意の三密加持によって即身成仏をはかる。



問3 下線部(b)に関して、墨家に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[41]

- ① 兼ねてあい愛しこもごもあい利するがごときは、これその利ありてかつなしやすきこと、あげて計るべからず。
- ② 天下の利を興し、天下の害を除くを求めんと欲すれば、楽の物たるに在るがごときは、まさに禁じて止めざるべからず。
- ③ 己に克ちて礼を履むを仁となす。一日己に克ちて礼を履めば天下仁に帰す。仁をなすを己による。人によらんや。
- ④ 一人を殺さばこれを不義と謂い、必ず一死罪あり。……いま大いに不義をなし国を攻むるに至りては、すなわち非とするを知らず、従いてこれを誉め、これを義と謂う。

問4 下線部(c)に関して、法家の法治説を述べた人物として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[42]

- ① 鄒衍    ② 韓非子    ③ 許行    ④ 孫子

問5 下線部(d)に関して、老子の思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[43]

- ① 自然現象を、定立しつつ補完し合う陰陽と、すべての物質を構成する五行という概念によって説明し、さらに循環する五行の順序に従って、王朝が変わるという説を唱えた。
- ② 万物の区別や差異は人間の視点に立った相対的なものにすぎず、本来はすべてのものが等しい存在であると説き、あるがままの天地自然に身を任せるべきであると主張した。
- ③ 平等な社会を実現するために、差別なき愛に基づき、自らの利益よりも常に他者のことを考える生き方を唱えた。
- ④ 宇宙の根源であり、万物を生み出す本質を道と名づけたうえで、人間はその道を模範として、作為的に振る舞うことのない自然に従った行き方をすべきであると主張した。



問2 下線部(a)に関して、徳治政治に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 政を為すに徳を以てせば、たとえば北辰のその所に居て、衆星のこれにむかうが如し。
- ② 学びて思はざれば則ちくらし。思ひて学ばざれば、すなわちあやふし。
- ③ その位に在らざれば、その政（まつりごと）を謀らず。
- ④ 巧言令色，すくなきかな仁。

問3 下線部(b)に関して、孟子の四徳として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 親義礼智      ② 親義別序      ③ 仁義礼智      ④ 仁義礼信

問4 下線部(c)に関して、四書五経の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 四書－論語，孟子，春秋，中庸      五経－詩経，書経，易经，大学，礼記
- ② 四書－論語，孟子，春秋，礼記      五経－詩経，書経，易经，大学，中庸
- ③ 四書－論語，孟子，大学，中庸      五経－詩経，書経，易经，春秋，礼記
- ④ 四書－論語，孟子，大学，礼記      五経－詩経，書経，易经，春秋，中庸

これで問題は終わりです。